

単元名「日本語のひびきを味わおう」
 教材 「春はあけぼの」(教育出版6年上)

児童の実態
 本学級の児童は、真面目で課題に丁寧に取り組む児童が多いが、自信が持てず自らの考えを伝えることに消極的な児童もいる。本単元を指導するにあたり事前にアンケートを行った(30名)。「読書は好きか」、「音読することは好きか」という問いに、肯定的な回答をした児童はそれぞれ25名、18名であり国語に関して意欲的な児童が多いことがわかった。しかし、「古典(昔に書かれた文章)に興味はあるか」という問いに、興味があると答えた児童は全体の10名だった。「をかし」の意味について想像させると、「お菓子」が7名、「おかしい」、「かくしごと」、「～を食す」、「面白い」が1名。他の児童は「わからない」と回答した。「あはれ」では、「あっぱれ」5名、「かわいそう」3名、「残酷」「情けない」「やはり」が1名であった。このことから、児童の古典に対する学習の意欲は低く、古語に対する知識が乏しいことがわかった。
 国語科の学習では、6学年に入り、「薫風・迷う」の随筆文を学習している。単元のゴールの随筆を書くという活動では、自らの経験を踏まえ、テーマに対する自身の考えを簡潔に随筆で表現できる児童もいる一方、出来事の羅列で終わってしまう児童も少なくなかった。
 以上の実態から、まずは古典作品の学習に対する興味・関心を高め、楽しみながら学習できるよう指導していく。また、「枕草子」の文章について内容の大体を知り、仮名の違いやリズムに気を付けて音読できるように指導する。単元のゴールでは、これまでの学習と関連させ、自分の「をかし」を見つけ「枕草子風」の文章を書き「6年2組版枕草子」を作成する。友達と作品を読み合い、四季に対する感じ方を自分のイメージと比較しながら楽しめるようにする。

- 単元のゴール**
- 進んで昔の人のものの見方や感じ方を知らうとしている。
(関心・意欲・態度)
 - 随筆の特徴を捉え、自分の経験や想像をもとに、随筆を書くことが出来る。
(書くこと イ)
 - 古文について、内容の大体を知り、音読すること。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
 - 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

清少納言のように、四季の中から自分の「をかし」を探して随筆に表し、「6年2組版枕草子」を作ります。どのように表現すれば読み手に感動が伝わるでしょう。

言語活動
 ○季節に関して自分の「をかし」を探し「6年2組版枕草子」を作る。
 学習のゴールに「6年2組版枕草子」を書く活動を取り入れる。作品を完成させるためには、現代仮名遣いと古典的仮名遣いの違いや、「をかし」や「あはれ」といった言葉の意味をしっかりと押さえる必要がある。随筆の書き方のポイントを確認しながら「枕草子風」の文章を書き、全体で「6年2組版枕草子」を完成させるという目的意識をもつことで児童の学びへの意欲を高める。

時	課題	学習内容	授業後の児童の姿
1	◎「枕草子」って何だろう。	○学習の見通し ○作品の概要	・学習の見通しをもち、「枕草子」の概要について理解している。 ・「枕草子」に書かれている内容について知らうとしている。
2	◎春と夏で筆者が感動していることは何だろう。	○語句の区切れ ○歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違い ○「おかし」の使われ方	・現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いに気付いている。 ・「をかし」がどのような意味で使われているのか理解している。 ・春と夏で筆者が感動しているものについて想像しながら読むことができる。
3	◎秋と冬で筆者が感動していることは何だろう。	○語句の区切れ ○歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違い ○「あはれ」の使われ方	・言葉の句切りに気をつけて読むことができる。 ・「あはれ」がどのような意味で使われているのか理解している。 ・秋と冬で筆者が感動しているものについて想像しながら読むことができる。
4 (本時)	◎自分のみつけた「をかし」を『枕草子』風」に書くにはどうしたらよいだろう。	○随筆の書き方 ○表現の工夫 体言止め 五感を働かせた表現 リズム 古語 ○交流の仕方	・随筆を書くときのポイントを理解している。 ・ポイントを踏まえて自らの主張を文章で表現することができる。
5	◎友達と作品を読み合い、「6年2組版枕草子」を完成させよう。	○交流の仕方	・友達の随筆の良いところを探することができる。 ・四季に対する感じ方を自分のイメージと比較することができる。

ゴールを意識した学びにするために
 見通しをもって学習できるよう単元導入時に、単元計画を児童とつくる。教室内の掲示で学習の経過をいつでも把握できるようにする。

効果的な話し合い活動にするために
 他教科や、学級活動の中でも、話し合いの目的を明確にし、根拠をもとに意見を主張できるようにする。

本時の目標 自分の感じる季節感を「『枕草子』風」に書いて交流することができる。

<p>前時の概要</p> <p>○秋と冬で筆者が感動していることは何だろう。 ・言葉の区切りに気をつけて音読する。 ・秋、冬を視写する。 ・言葉、自然、季節など今と同じところ、違うところを見つける。 ・筆者の感動したことを想像する。</p>
<p>主体的・対話的で深い学びに向けて</p> <p>児童にとって身近である、四季の中から自分の「をかし」を見つけ「『枕草子』風」な文章を書くことを通して、古典との共通点・相違点を探し、主体的に学ぶ姿勢を育む。話し合いの場面を設定し、互いの作品が学習のポイントを押しえられているか話し合うことで、友達の見解を聞きながら自分の考えをさらに深められるようにする。</p>
<p>本時の板書計画 4/5</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>⑤</p> <p>まとめ 話し合い</p> <p>表現の工夫を使い、自分の経験から感じたことを書けば、「『枕草子』風」に「をかし」を伝えることができる。</p> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>例</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>春はあけぼの 課題</p> <p>自分のみつけた「をかし」を「『枕草子』風」に書くにはどうしたらよいだろう。</p> </div> </div> <p>随筆 経験し気づいたこと・考えたこと (表現の工夫) ・体言止め ・五感 ・リズム ・比喩 ・古語 (をかし・あはれ・いと・わろし・いふべきにもあらず)</p>
<p>一人一人を伸ばす 上位層、下位層にむけて</p> <p>上位層 比喩や古語を使い、工夫して表現する。 下位層 あらかじめ、季節のどんなところに心引かれるのか、書く内容を決めておく。表現の工夫の中から、体言止め・五感を使えるようにする。</p>
<p>今後の展開</p> <p>○友達と作品を読み合い、「6年2組版枕草子」を完成させよう。 ・前時に作成した「『枕草子』風」文章を清書する。 ・作品を発表し合い、感想を述べる。 ・四季に対する感じ方を自分のイメージと比較する。</p>

学習活動	学習内容	指導上の留意点
1 前時までの学習を振り返り、「枕草子」を音読する。	○前時の学習内容の想起 ○語句の区切れ ○歴史的仮名遣いの読み方	・清少納言が感動していた内容を振り返る。 ・単元のゴールを再確認する。
2 本時の課題を把握する	○学習の見通し	
<p>自分のみつけた「をかし」を「『枕草子』風」に書くにはどうしたらよいだろう。</p>		
3 教師の例で表現の工夫を確認する。	○表現の工夫 ・体言止め ・五感を働かせた表現 ・リズム ・比喩 (たとえ) ・古語	・清少納言の「枕草子」と教師の例を比べ、表現の工夫を押しさえる。 ・例にラインを引きながら工夫がどこにあるか全体で確認する。
4 「『枕草子』風」に随筆を書く。	○随筆の書き方 ○表現の工夫を押しさえた書き方	・自分が見たり、経験したりしたことを踏まえて考えて書くことができるようにする。 書随筆の特徴を捉え、自分の経験や想像をもとに、表現の工夫を使い、随筆を書くことができる。(ワークシート)
5 グループで読み合い、アドバイスし合う。	○交流の仕方 ① 一人ずつ作品を読む ② 聞き手はチェックシートに表現の工夫がされているか記入しながら聞く。 ③ 良かったところ、もっと良くするためのアドバイスを伝える。	・司会を中心に流れに沿って交流できるようにする。 ・良いところを進んで探することができるようにする。 ・アドバイスを踏まえ、自分の作品を推敲する時間を設ける。
6 本時のまとめと振り返りをする。	○本時のまとめ ○振り返り	
<p>表現の工夫を使い、自分の経験から感じたことを書けば、「『枕草子』風」に「をかし」を伝えることができる。</p>		・次回は清書を行い「6年2組版枕草子」を完成させることを伝える。